

第2章 こどもと子育て家庭の現状と課題

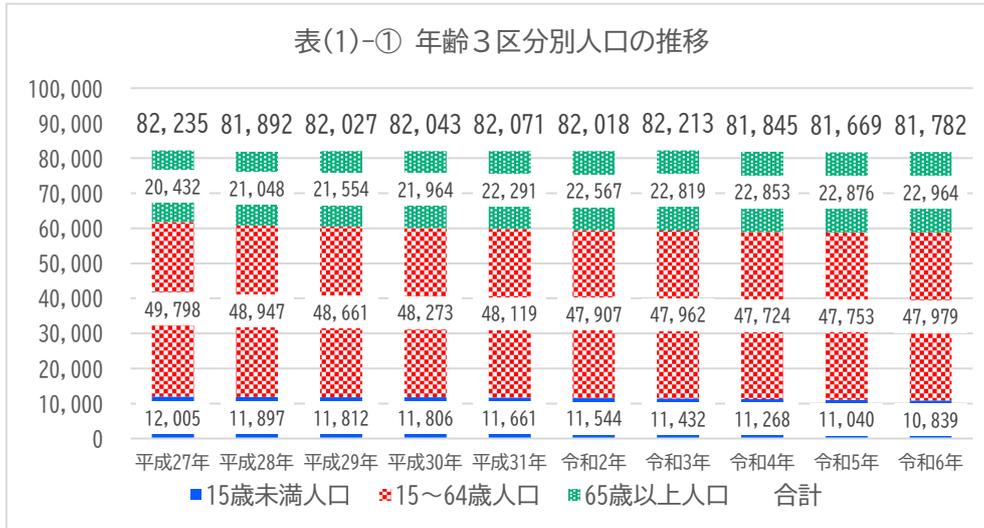
1 統計データでみえる近江八幡市

(1) 人口の状況

① 年齢3区分別人口の推移

本市の人口推移をみると、総人口は平成27年から、おおむね82,000人前後で推移しており、令和6年4月現在で81,782人となっています。

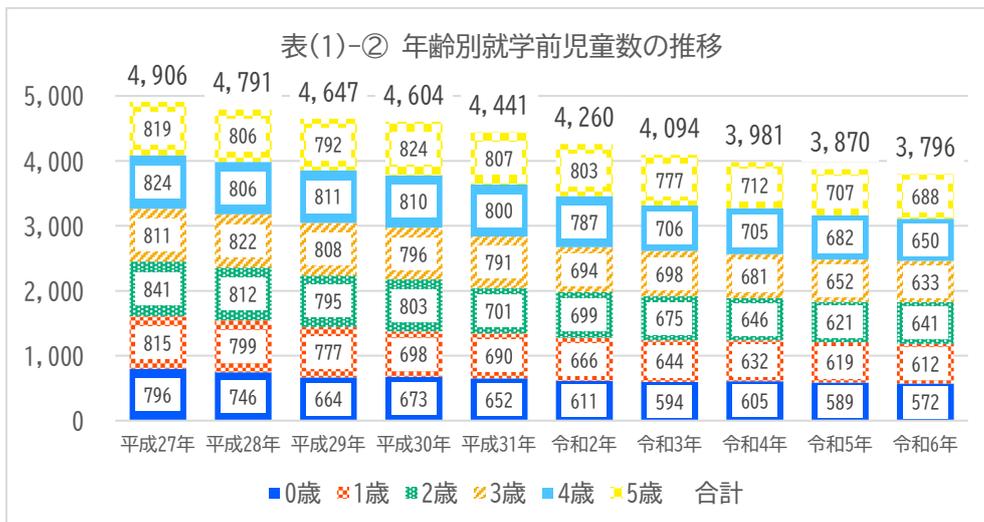
また、年齢3区分別人口構成の推移をみると、15歳未満人口は減少しているのに対し、65歳以上人口は増加しています。15～64歳人口については、ほぼ横ばいです。



【出所】住民基本台帳（各年4月1日現在）

② 年齢別就学前児童数の推移

本市の0歳から5歳（就学前）の人口は、平成27年と比較して1,110人減少し、令和6年4月現在で3,796人となっています。いずれの年齢層も減少していますが、0歳児の人口が最も減少幅が大きく、平成27年と比較して224人減少しています。



【出所】住民基本台帳（各年4月1日現在）

③ 年齢別就学児童数の推移

本市の6歳から11歳のこどもの人口は、令和2年以降は減少しており、令和6年4月現在で4,634人となっています。6歳の人口は、平成27年と比較して140人減少しています。



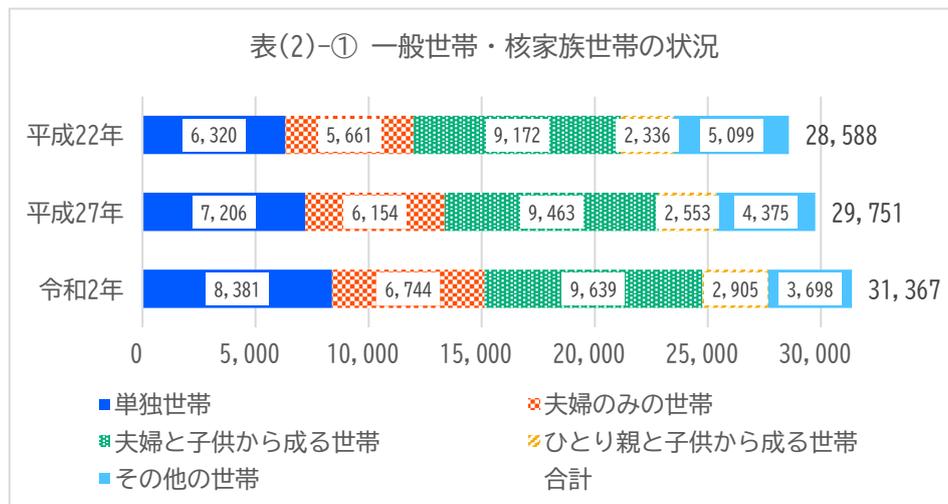
【出所】住民基本台帳（各年4月1日現在）

(2) 世帯の状況

① 一般世帯・核家族世帯の状況

本市の一般世帯は、増加傾向にあり、令和2年では全体で31,367世帯となっています。

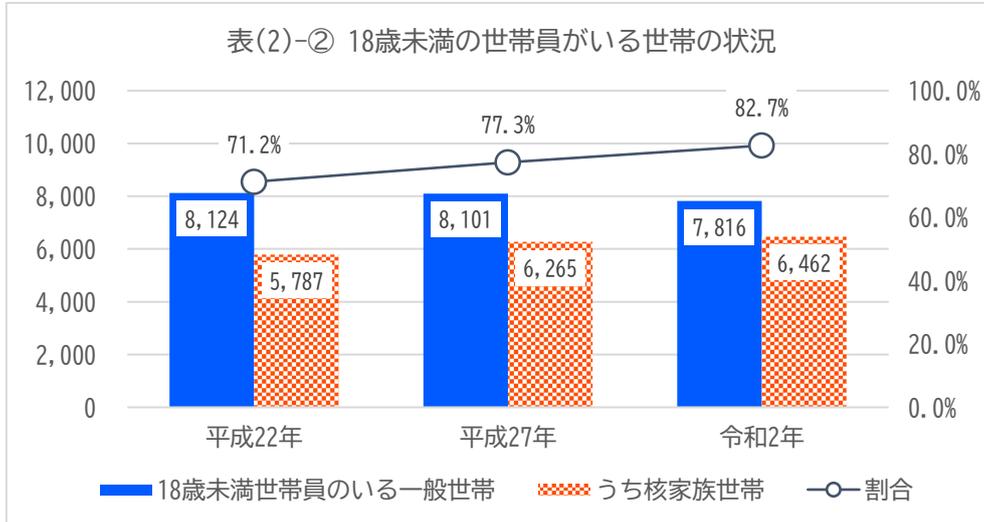
世帯の家族類型別にみると、「単独世帯」（世帯人員が1人の世帯）は8,381世帯（一般世帯の26.7%）、核家族世帯は、「夫婦のみの世帯」が6,744世帯、「夫婦と子供から成る世帯」が9,639世帯、「ひとり親と子供から成る世帯」が2,905世帯となっており、合計で19,288世帯（61.5%）といずれも増加しています。多世帯同居などの「その他の世帯」は3,698世帯（11.8%）で、減少傾向にあります。



【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

② 18歳未満のこどもがいる世帯の状況

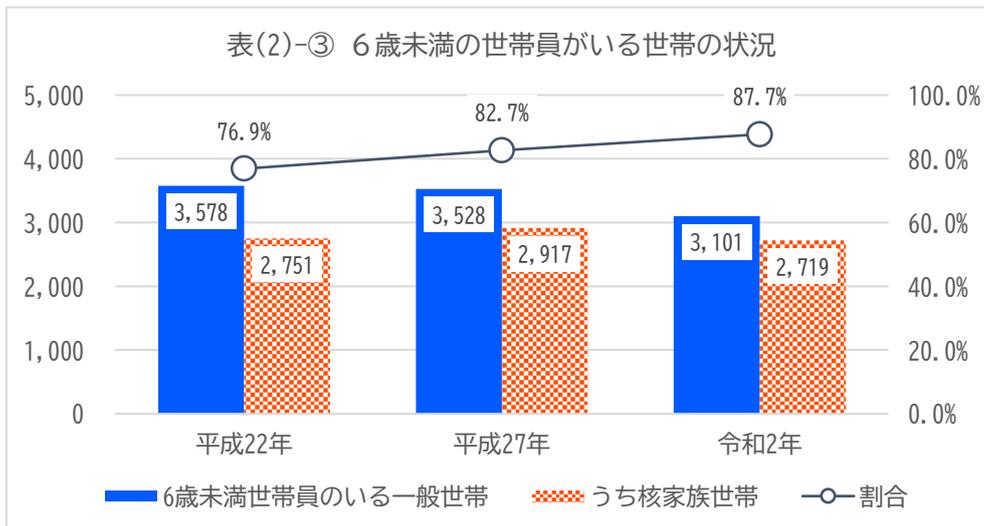
本市の18歳未満のこどもがいる一般世帯数は年々減少しており、令和2年で7,816世帯となっています。そのうち18歳未満のこどもがいる核家族世帯が占める割合は、82.7%（6,462世帯）と増加しています。



【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

③ 6歳未満のこどもがいる世帯の状況

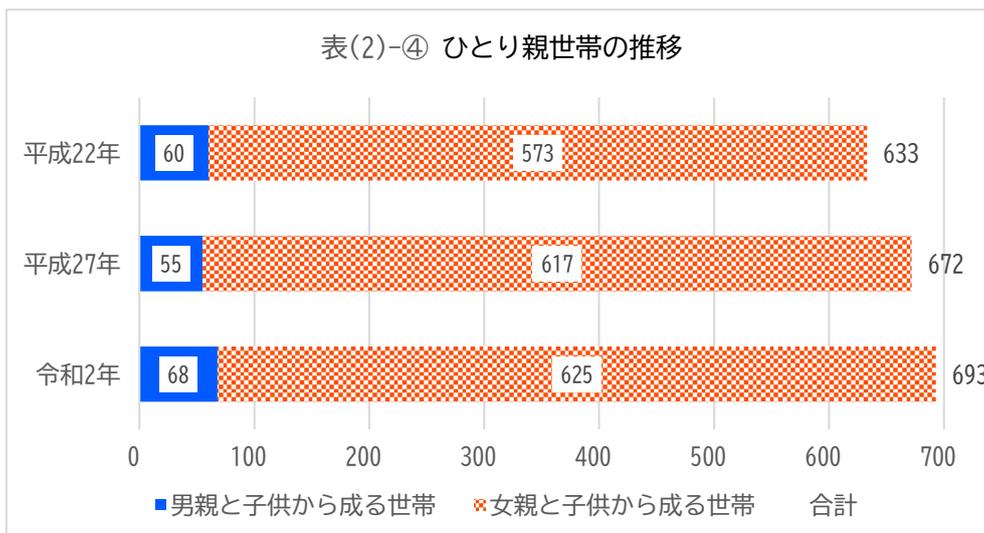
本市の6歳未満のこどもがいる一般世帯数は年々減少しており、令和2年で3,101世帯となっています。そのうち6歳未満のこどもがいる核家族世帯が占める割合は、87.7%（2,719世帯）と増加しています。



【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

④ ひとり親世帯の推移

本市の18歳未満のこどもがいるひとり親世帯は年々増加しており、令和2年で693世帯となっています。内訳として、「男親と子供から成る世帯」は68世帯（9.8%）、「女親と子供から成る世帯」は625世帯（90.2%）となっています。

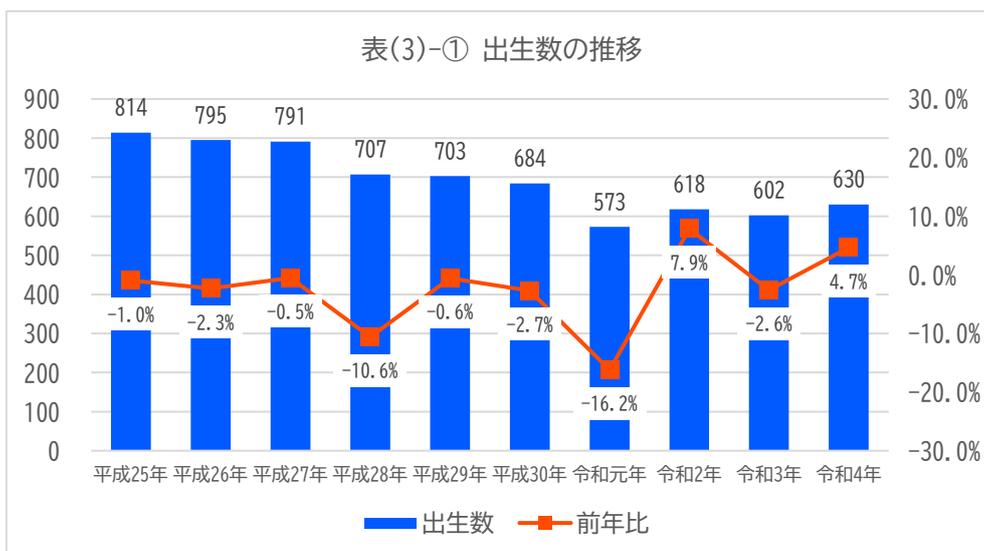


【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

(3) 出生の状況

① 出生数の推移

本市の出生数は、増減を繰り返しながら、全体として減少傾向にあり、令和4年は630人となっています。平成29年の703人と比較しておよそ1割(73人)減少しています。



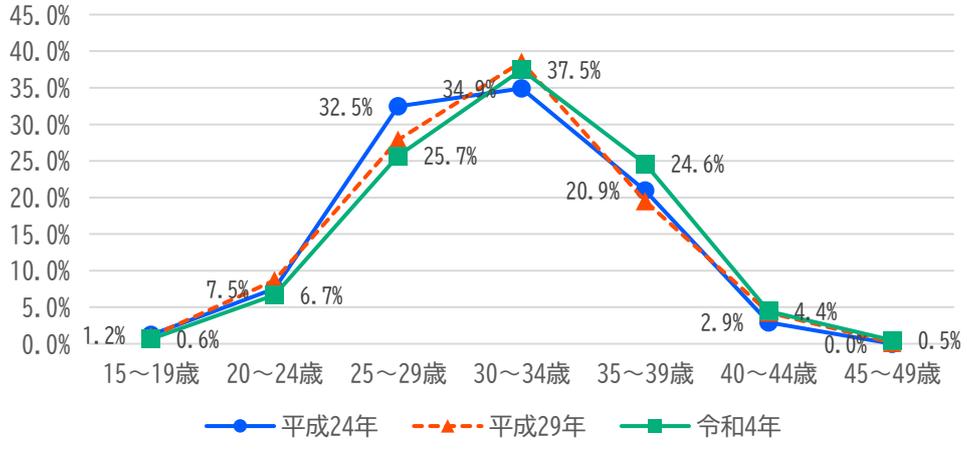
【出所】滋賀県人口動態調査

② 母親の年齢（5歳階級）別出生率の推移

本市の母の年齢（5歳階級）別出生率は、令和4年は「30～34歳」（37.5%）が最も多く、次いで「25～29歳」（25.7%）、「35～39歳」（24.6%）となっています。

この傾向は、平成24年から令和4年まで同様ですが、年々30歳以降の出生率が増加しており（平成24年58.7%→令和4年67.0%）、晩産化が進行していることがうかがえます。

表(3)-② 母親の年齢（5歳階級）別出生率の推移



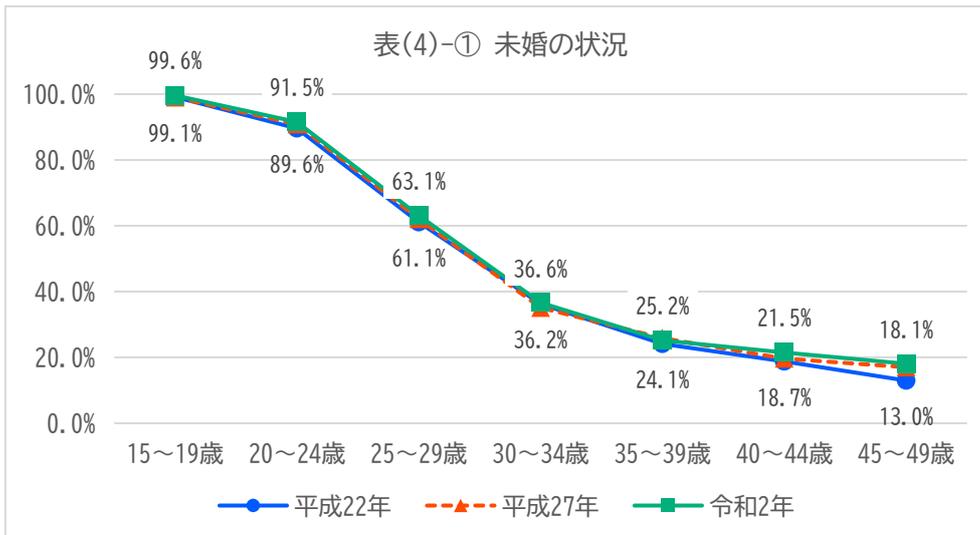
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
平成24年	1.2%	7.5%	32.5%	34.9%	20.9%	2.9%	0.0%
平成29年	1.0%	8.7%	27.9%	38.5%	19.5%	4.3%	0.1%
令和4年	0.6%	6.7%	25.7%	37.5%	24.6%	4.4%	0.5%

【出所】厚生労働省人口動態調査（平成24年、平成29年、令和4年）

(4) 未婚・結婚の状況

① 年齢（5歳階級）別未婚率の推移

本市の年齢（5歳階級）別未婚率の推移をみると、すべての年齢で未婚率が上昇しています。※上段が令和2年の数値、下段が平成22年の数値

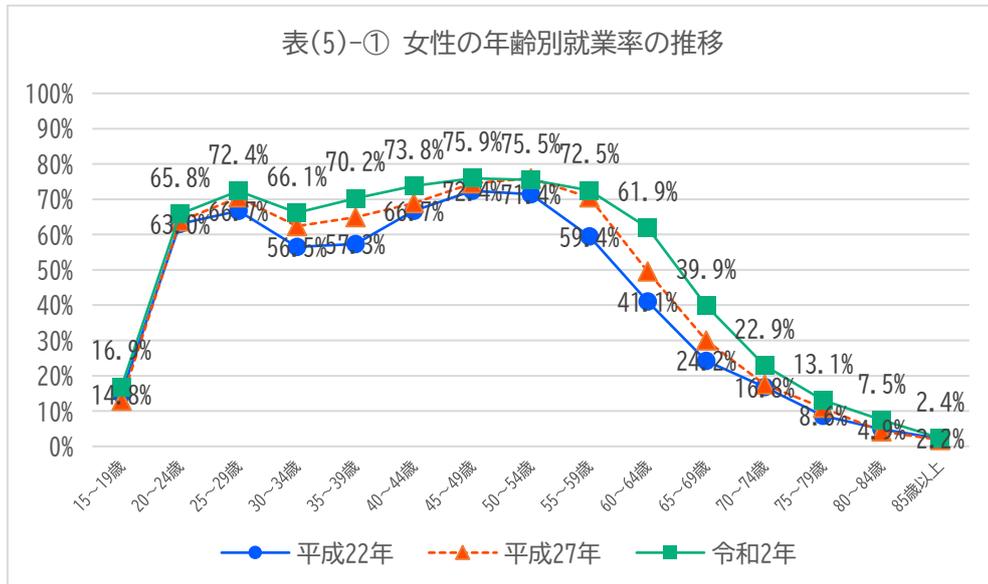


【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

(5) 就業の状況

① 女性の年齢別就業率の推移

本市の女性の年齢別就業率は、増加傾向にあります。出産・育児期に落ち込み、再び増加するM字カーブについては、落ち込みの大きい「25～29歳」から「35～39歳」の就業率が上昇しており、緩やかな台形に近づいています。



	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳
平成22年	14.8%	63.0%	66.7%	56.5%	57.3%	66.7%	72.4%	71.4%
平成27年	12.9%	63.8%	70.5%	62.4%	64.9%	68.9%	74.5%	75.9%
令和2年	16.9%	65.8%	72.4%	66.1%	70.2%	73.8%	75.9%	75.5%

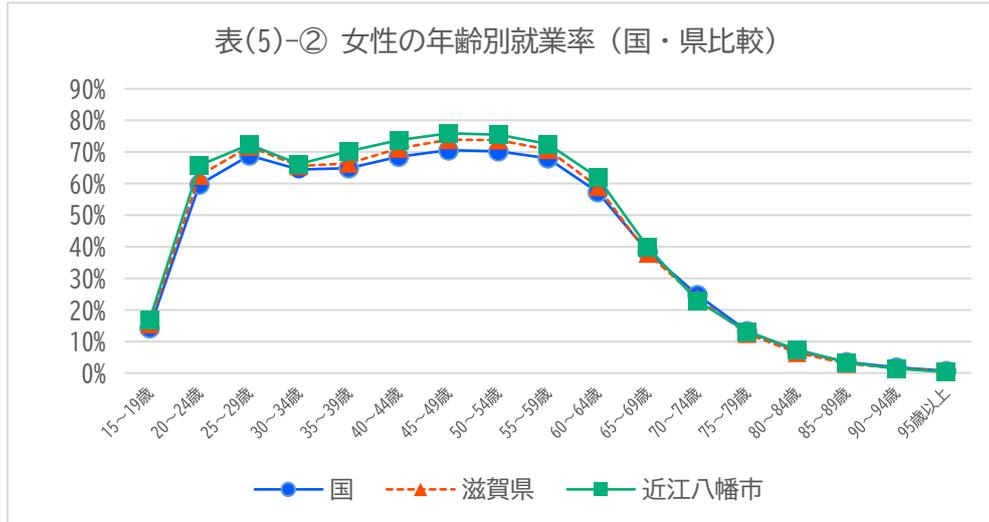
	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
平成22年	59.4%	41.1%	24.2%	16.8%	8.6%	4.9%	2.2%
平成27年	70.5%	49.5%	30.0%	17.5%	10.9%	4.2%	1.8%
令和2年	72.5%	61.9%	39.9%	22.9%	13.1%	7.5%	2.4%

【出所】国勢調査（平成22年、平成27年、令和2年）

② 女性の年齢別就業率（国・県比較）

本市の令和2年の女性の年齢別就業率を全国、滋賀県と比較すると、ほぼ同じような動向を示していますが、「15～19歳」から「60～64歳」まで国・県よりも高い就業率となっています。

表(5)-② 女性の年齢別就業率（国・県比較）



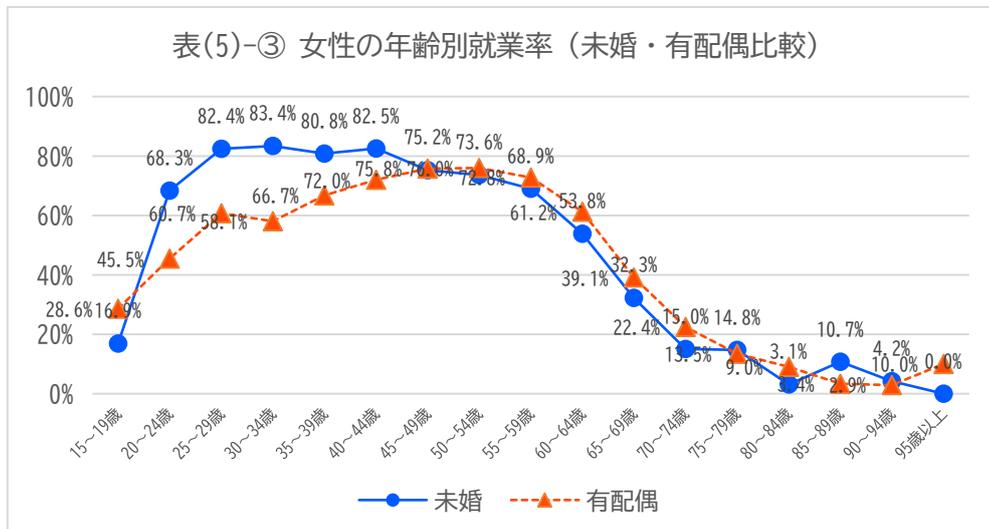
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
全国	14.2%	59.7%	68.9%	64.5%	64.9%	68.5%	70.6%	70.2%	68.0%
滋賀県	15.6%	62.6%	71.8%	65.6%	66.4%	71.1%	73.9%	73.7%	70.7%
近江八幡市	16.9%	65.8%	72.4%	66.1%	70.2%	73.8%	75.9%	75.5%	72.5%

	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	総数
全国	57.3%	38.5%	24.8%	13.3%	7.0%	3.5%	1.8%	0.7%	46.5%
滋賀県	59.0%	37.9%	23.8%	12.5%	6.4%	3.0%	1.6%	0.6%	48.8%
近江八幡市	61.9%	39.9%	22.9%	13.1%	7.5%	3.4%	1.3%	0.3%	49.8%

【出所】国勢調査（令和2年）

③ 女性の年齢別就業率（未婚・有配偶比較）

本市の令和2年の女性の未婚・有配偶別就業率をみると、「20～24歳」から「40～44歳」において、未婚者の就業率が有配偶よりも高くなっています。

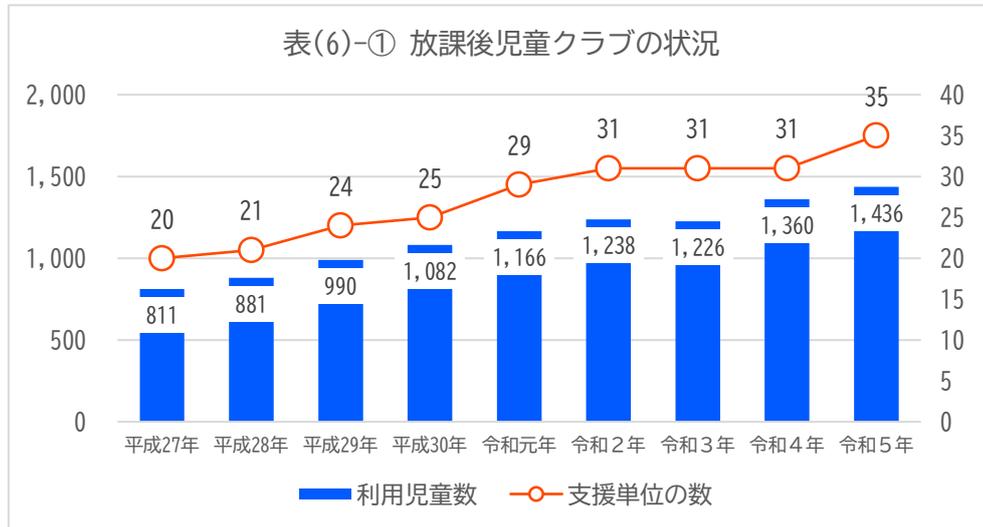


【出所】国勢調査（令和2年）

(6) 放課後児童クラブの状況

① 放課後児童クラブの状況

本市の放課後児童クラブの利用ニーズは年々増加しており、平成27年以降拡充を図っています。令和5年で支援の単位（※1支援単位あたり概ね40人）は35、利用者数は1,436人となっています。

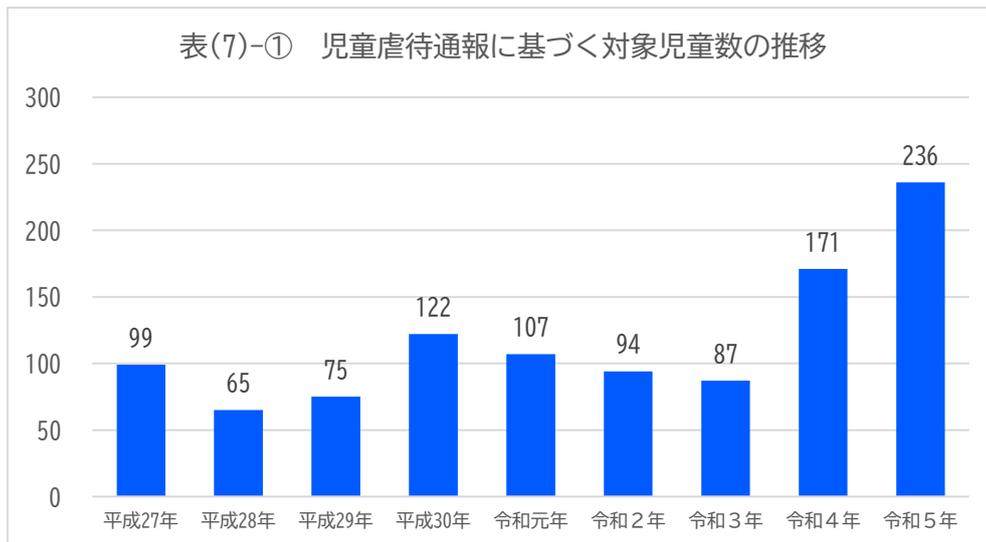


【出所】近江八幡市（子育て政策課）※年度

(7) その他の状況

① 児童虐待通報に基づく対象児童数の推移

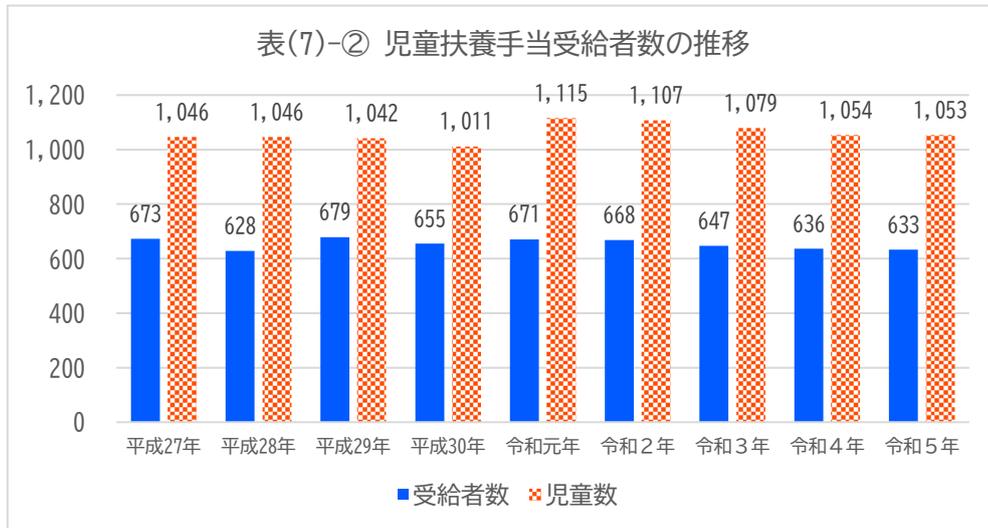
本市の児童虐待通報に基づく対象児童数は、令和3年から令和4年にかけて急増し、令和5年で236人となっています。



【出所】近江八幡市（こども家庭センター）※年度

② 児童扶養手当受給者数の推移

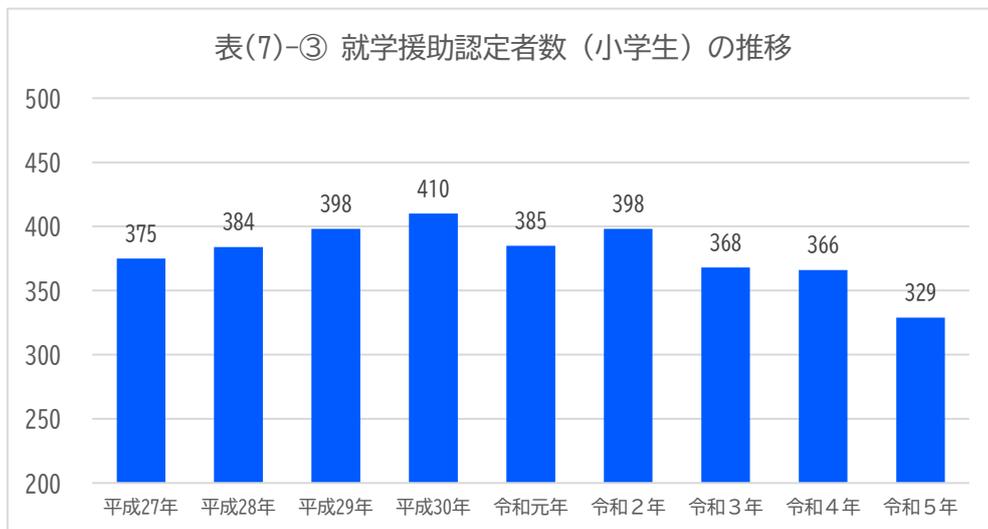
本市の児童扶養手当受給者数・受給対象児童数は、近年はほぼ横ばいで、令和5年で受給者数が633人、受給対象児童数が1,053人となっています。



【出所】近江八幡市（こども家庭センター）※年度末時点

③ 就学援助認定者数（小学生）の推移

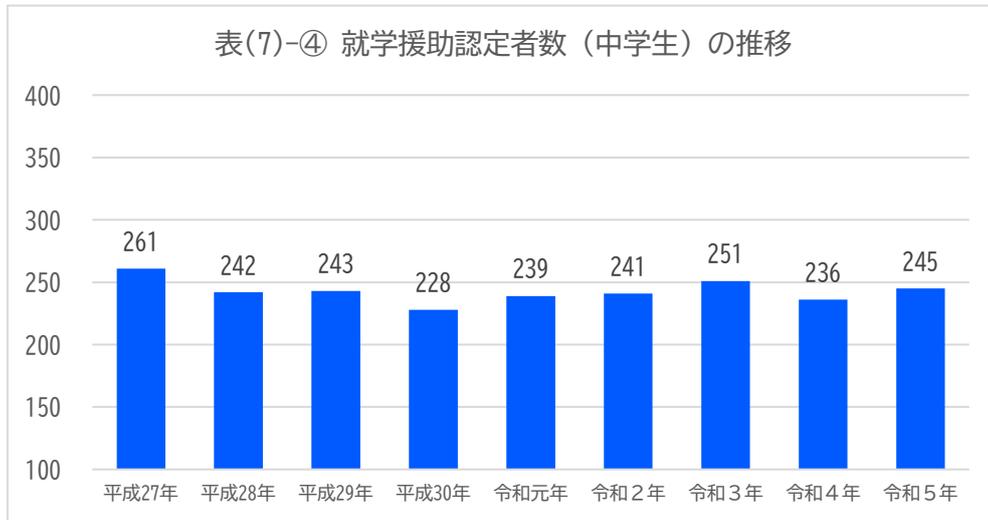
本市の小学生における就学援助認定者数は、令和2年から減少傾向にあり、令和5年で329人となっています。



【出所】近江八幡市（学校教育課）※年度

④ 就学援助認定者数（中学生）の推移

本市の中学生における就学援助認定者数は、近年はほぼ横ばいで、令和5年で認定者数が245人となっています。

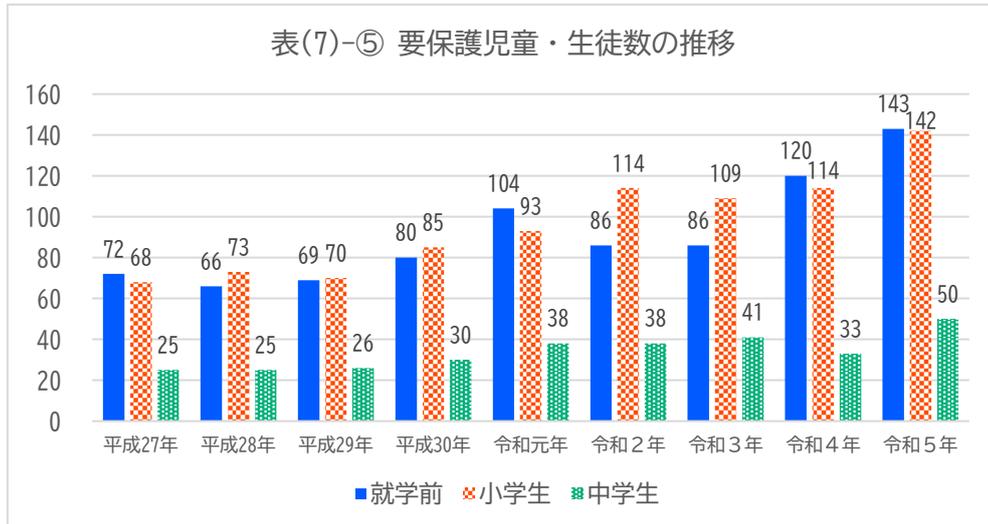


【出所】近江八幡市（学校教育課）※年度

⑤ 要保護児童・生徒数の推移

本市の要保護児童数（就学前）は、令和3年以降増加しており、令和5年で143人となっています。

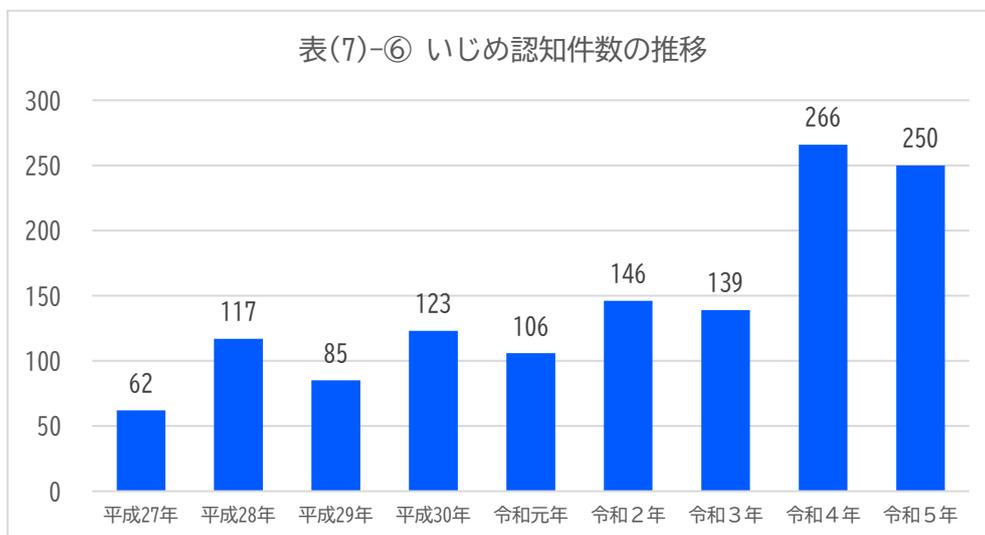
また、要保護児童数（小学生）は平成29年以降増減を繰り返しながら、増加傾向で推移しており、令和5年で142人となっています。要保護児童数（中学生）についても、増加し令和5年で50人となっています。



【出所】近江八幡市（こども家庭センター）※年度

⑥ いじめ認知件数の推移

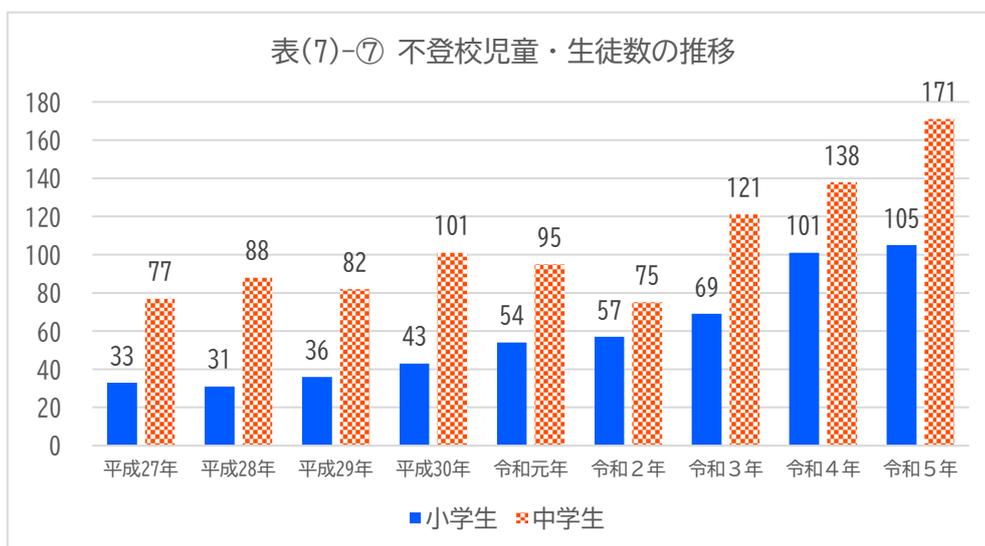
本市のいじめ認知件数は、令和3年までは年間100件前後で推移していましたが、令和4年以降は急増し、令和5年は250件となっています。



【出所】近江八幡市（学校教育課）※年度

⑦ 不登校児童・生徒数の推移

本市の不登校児童・生徒数は、増加傾向で推移しており、令和5年で小学生が105人、中学生が171人となっています。



【出所】近江八幡市（学校教育課）※年度